

## 学修成果の可視化 ②

## 学生たちは《学生プロフィール》をどう受け止めたか

大学院教育強化推進センター／高大接続・全学教育推進センター 市村 光之

2017年度秋学期よりYNU学生ポートフォリオに《学生プロフィール》を試行導入し、2018年度から留学生を含め、文字通り全学部生が春、秋の年2回、必ず入力するツールとして本格運用が始まりました。学生は毎学期、履修登録時に学生プロフィールの入力を済ませないと履修登録画面に進めません。このような形で学生に入力を強制することが妥当なのか、学生は主体的に学べるようになるのか、導入担当者として不安がないわけではない、と本ニュースレターの前月号（Vol.10）で書きました。

2019年1月にそれらを検証し、学生プロフィールをよりよい仕組みに改善する目的で、学生へのアンケート（82名）およびヒアリング（10名）調査を実施しました。

## 目的や活用法の周知徹底が 入力精度を上げるカギになる

秋学期の学生プロフィールについて、入力精度を確認した結果、誠実に入力した学生は3割に過ぎませんでした（図1）。真面目に入力しなかった理由を選ばせたところ、設問が多すぎて途中からいい加減になったとの回答が5割を占めました（図2）。

ヒアリングで詳細を訊ねると、学生プロフィールの入力意義がわからないことが根本的な理由で、そのため多くの設問に回答するのが途中で面倒になるとのことで、単純に設問を減らせば解決する課題ではないことがわかりました。新入生には学部オリエンテーションやYNUリテラシー教材、上級生には学務情報システム上のお知

らせ文書で周知を図りましたが、徹底していなかったということです。

一方、入力結果を前年度との比較で確認したり、YNUリテラシー教材記載の活用法を改めて読み返すと、役立つツールであることがわかると言います。つまり、入力の目的や活用法が理解できれば、役立つ仕組みと学生たちの活用が進みそうです。入力を必須にしたことについては、本来なら自主的にすべきことだが定期的に強制されないと忘れるので、半年に1回、一斉に入力だよとの受け止めでした。

学生プロフィールは、学生にとっては主体的な学びをデザインするツールであり、教職員にとっては学生の学修行動や学修成果を分析し、教育改善に結びつける学生IRのデータ収集ツールです。入力内容の精度が保証されなければ、それらの目的は達成できません。学生プロフィールの目的や活用法をさらに周知徹底し、正確な入力を促すことが、今後の改善のための最優先課題であることが確認できました。

## 学生にとって役立ち度は…

「学修・生活行動チェックシート」の役立ち度を4件法で測定したところ、平均は2.74（中間点が2.5）で、設問の削減を含め改善の余地があります。自分がどのように時間を過ごし、どれほど時間を無駄に使っているかを改めて確認することができた、と生活リズムを見直すきっかけになっています。

「就業力自己チェックシート」の役立ち度は、平均3.07と、導入段階としてはまずまずでした。自分のスキルを

図1：学生プロフィールを誠実に入力したか

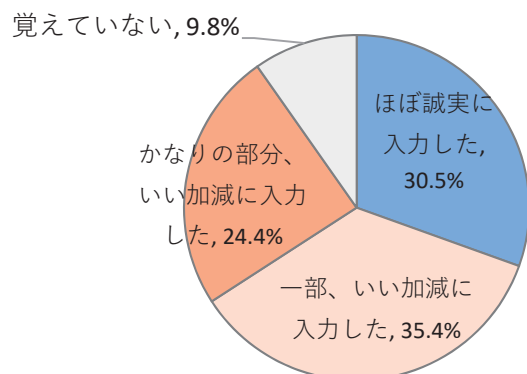
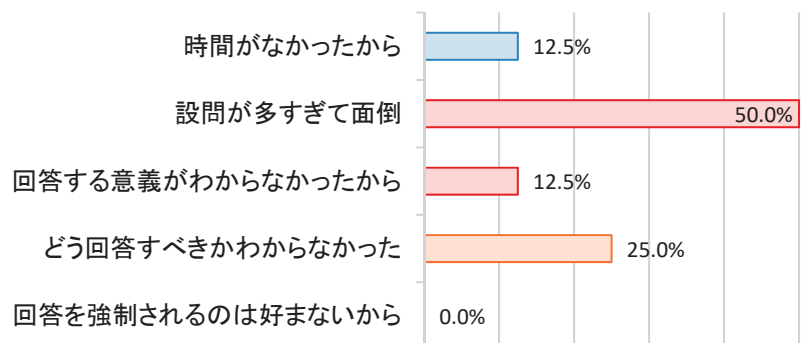


図2：学生プロフィールを誠実に入力しなかった理由



視覚的にとらえることができる、1～2年後に見返したときに参考になりそう、と学生は好意的に受け止めています。さらに活用法を周知することで効果が上がることを期待しています。

「振り返りシート」の役立ち度は、平均2.95でした。学期中に感じたことや興味関心は記録しておかないと忘れてしまう、新学期の履修を考える上で役立つと、意義を理解する学生がいる一方で、早く履修登録したい気持ちでいっぱいなので一言ずつしか書いていない、など形式的にしか活用が進んでいない面があります。振り返りの記録は就職活動でも活用できますので、そうしたメリットを含め記入を促す工夫が必要です。

これらアンケートのスコアの解釈さまざまですが、システムとしての使いやすさを含め改善の余地は大いにあり、今後とも改修を進めていきます。

## 学生は教員との交流を求めている

YNU学生ポートフォリオは、学生の記入内容を指導教員が閲覧し、必要に応じて学生にフィードバックできる機能がありますが、現在はほとんど活用されていません。フィードバックがあるほうが入力への励みになり、教員への相談ごともしやすいでしょう。しかし、教員が閲覧すると学生は当たり障りのないことしか書かなくなり、学業や学生生活を内省するツールではなくなる可能性があります。さらに、下級生の間は学生と指導教員との間のやり取りは少なく、どのような学生なのかよくわからない状況で、教員が学生に適切なフィードバックをするのは難しい面もあります。

そこで、ポートフォリオの記載内容を指導教員に開示することに関し、学生はどう思うか、訊ねてみました(図3)。学生の意見は開示(グラフの青)・どちらでもよい(緑)・非開示および部分開示等(赤)で意見が割れました。賛成派は、確認してもらえるほうが書くときの励みになり、教員からのアドバイスが貴重だと考えています。つまり、効果的な助言がもらえるなら開示してもよいとの意見です。反対派は、開示が前提では内省の記録として正直に書きにくい面があることに加え、そこまで管理されたくない意識があります。これら学生たちの意見も踏まえ、ポートフォリオの開示機能の活用法については、慎重に検討していきます。

ポートフォリオの開示の是非はひとまず置くとして、「大学に入って急に教員との距離が離れ、話せる機会がないのでそういう機会があってもよい」など、特に1～2年生の間で、教員とのコミュニケーションの機会を求める声が多く聞かれました。高校までの担任やクラスがない分、研究室やゼミに所属する前の学生たちを各学部の教授団がいかにサポートするか、これも大切な課題です。

なお、本件の詳細な報告書は下記より公開しています。ぜひご一読ください。

### サイボーズのファイル管理を開く

高大接続・全学教育推進センター > 学生ポートフォリオ > 2018年と順に開く

図3：ポートフォリオの教員への開示に賛成か

